



## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定める日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京証券代行株式会社 東京都千代田区大手町二丁目6番2号（日本ビル4階）
郵便物送付先・連絡先	〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 東京証券代行株式会社 事務センター ☎0120-49-7009 ※取次事務は、中央三井信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
住所変更・単元未満株式の買取・買増等のお申出先	お取引口座のある証券会社にお申し出ください。ただし、特別口座に記録された株式に係る各種手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である東京証券代行株式会社にお申し出ください。
未支払配当金のお支払い	株主名簿管理人である東京証券代行株式会社にお申し出ください。
公告方法	電子公告 <a href="http://tigers.jp/">http://tigers.jp/</a> ただし、電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部 大阪証券取引所 市場第一部
証券コード	4231

## タイガースポリマー株式会社

大阪府豊中市新千里東町一丁目4番1号  
TEL 06-6834-1551 <http://tigers.jp/>

## 第68期

# 中間報告書

平成21年4月1日から平成21年9月30日まで

## タイガースポリマー株式会社

## 当社の経営方針

- 「3×4」のバランス経営：3つの技術（ホース、ゴムシート、モールド（成形品）を造る技術）で4つの市場（家電・OA、自動車、土木・建築・住宅、産業資材）へ安定供給する。
- ニッチ市場で高シェア：高い収益性の確保を目指す。
- アウトソーシング：経営資本の選択と集中を図る。
- 海外展開：最適地生産・調達・開発でグローバルにビジネスを勝ち抜く。
- 技術開発で生き残る：新製品・改良製品の開発体制の強化に注力する。

## 業績ハイライト（連結）〈第2四半期 累計〉



### ● 連結売上高：前年同期比58億40百万円の減収

国内外における自動車需要の低迷や設備投資、住宅着工の減少に加え、円高による為替の影響等により、減収となりました。

### ● 連結経常損失：前年同期比10億38百万円の減益

固定費等の経費削減を全社的に推し進めましたが、売上的大幅な減少、円高による為替の影響等により、減益となりました。

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、第68期中間報告書（平成21年4月1日から平成21年9月30日まで）をお届けするにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、国内外の経済対策効果による輸出の持ち直しや在庫調整の進展を背景に景気が回復傾向を辿っておりますが、失業率の上昇による雇用環境の悪化が続いており、国内需要は依然として脆弱なものとなっております。

このような環境の中、当社グループは、営業力および開発力の強化や固定費の削減に取り組んでまいりましたが、自動車需要の低迷や設備投資、住宅着工の減少の影響を受けたことなどにより、連結売上高は116億48百万円（前年同期比58億40百万円 33.4%減少）となりました。損益面では、営業損失は2億5百万円（前年同期は営業利益7億68百万円）、経常損失は2億10百万円（前年同期は経常利益8億27百万円）、四半期純損失は2億61百万円（前年同期は四半期純利益3億10百万円）とそれぞれ減益となりました。

なお、中間配当金につきましては、このような業績を考慮し、誠に遺憾ながら、無配とさせていただきます。株主の皆さまには、誠に申し訳なく深くお詫び申し上げますとともに、何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。

下半期の見通しにつきましては、厳しい状況が続くものと認識しております。

当社グループといたしましては、このような状況を踏まえ、グループ全体の収益力の回復と企業力の強化に注力することが重要な課題と考えております。

代表取締役社長

渡辺健太郎



### ①収益力の回復

ホース部門・ゴムシート部門等の内作製品を中心に収益力のある製品の売上拡大、収益の源となる新製品開発の推進など、選択と集中の視点に立ち、強みを生かせる分野に経営資源をシフトいたします。

さらには、原価低減活動と固定費の削減により損益分岐点を引き下げ、厳しい環境下においても確実に収益をあげる体質へと転換してまいります。

また、設備投資の圧縮・在庫削減・債権管理の強化を推進し、キャッシュ・フロー重視の経営を推進してまいります。

### ②企業力の強化

これらの厳しい環境の変化に対応して事業活動を継続するために、人材の育成に注力し、企業力の強化を図ってまいります。

また、CSR経営の視点に立ち、ステークホルダーとの円滑な関係を維持するために、コンプライアンスやリスク管理体制、コーポレートガバナンスに関する体制など、内部統制システムの整備・強化に取り組んでまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後ともより一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成21年12月

## 日本・米国・アジアの三大拠点で、グローバルな生産体制を構築

当社は、「需要のあるところで生産する」、現地生産、現地調達の方を基本に、家電や自動車メーカー等ユーザーの海外生産の拡大に対応するため、早くから海外に進出し、生産拠点のグローバル化、現地化を進めてきました。現在では、米国・タイ・マレーシア・中国の4ヶ国6ヶ所に生産供給拠点をもち、日本国内と相互補完できるグローバルな生産・調達体制を構築しています。

アジア地域では、今後とも拡大する需要、生産シフトの進展を受けて、中国第二の生産拠点である広州において、自動車部品の生産を増加させています。当社は、現地化が早く、ユーザーの海外生産移転に対する迅速・的確な対応をはじめ、優れた製品開発技術力、商品力、提案力等により、海外生産のベストパートナーとして数多くのユーザーと強固な信頼関係を築いています。

### タイガースポリマーグループの生産拠点

#### ①国内



岡山工場



静岡工場



栃木工場

#### ②杭州泰賀塑化有限公司 (中国)



#### ⑤Tigers Polymer (Malaysia) Sdn.Bhd. (マレーシア)



#### 高槻化成有限会社 (大阪府)



#### ③広州泰賀塑料有限公司 (中国)



#### ⑥Tigerflex Corporation (米国)



#### 武庫川化成有限会社 (兵庫県)



#### ④Tigerpoly (Thailand) Ltd. (タイ国)

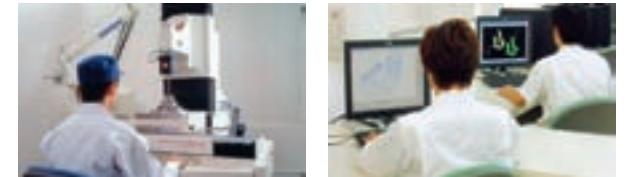


#### ⑦Tigerpoly Manufacturing, Inc. (米国)



## 独自性の高い新製品の提供で、常に市場ニーズを先取り

当社は、新製品・改良製品の開発体制の強化を最重要課題に、基礎技術、商品開発技術、製造技術等の技術開発に力を注いでいます。材料から加工・金型・設備まで、ゴム・樹脂製品を開発するための基本技術をすべて自社で保有しているため、開発スピードが速く、独自性の強い新製品を常に提供することで市場から高い評価を得ています。より高品質の製品をより効率的に生産するために、製造設備・生産技術の改良やコストダウンに取り組むとともに、ホース、ゴムシート、成形品の各部門にわたり、常に市場ニーズを先取りした研究開発に挑戦し続けています。



開発研究所 (神戸市西区)

### 最近の主な製品開発

当社子会社Tigerpoly Manufacturing, Inc. (米国) は、HONDA PILOTのエアクリナーを供給しています。



エレメント



エアクリナー

エアクリナーは、エンジン内にきれいな空気を効率良く送り込むための重要な部品です。平成20年4月からHONDA PILOTに搭載されているエアクリナーには、新規開発したエレメント (濾過フィルター) が採用されています。このエレメントは、これまでの市場にはない高効率・低通気抵抗のエレメントであり、平成21年4月23日に開催された米国自動車技術会で、本田技術研究所と当社の共同開発品として発表されました。

部門別の概況

ホース部門

国内ではエアコン等の家電用ホースが低迷したことに加え、機械設備用・住宅用等の産業用ホースが減少いたしました。海外では、米国で生産する産業用ホースが景気の低迷や円高による為替の影響により減少したほか、マレーシアおよびタイで生産する家電用ホースも減少いたしました。この結果、ホース部門全体の売上高は、34億37百万円（前年同期比10億29百万円 23.0%減少）となりました。

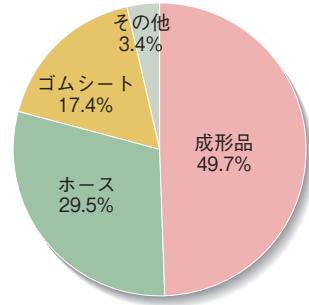
ゴムシート部門

玄関用マットが景気の悪化により減少したことに加え、汎用シートや自動車産業向けシートなど全般にわたり減少いたしました。この結果、ゴムシート部門全体の売上高は、20億25百万円（前年同期比7億7百万円 25.9%減少）となりました。

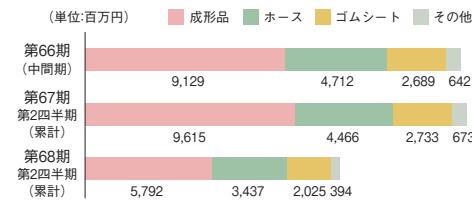
成形品部門

国内をはじめ米国、タイにおきまして、自動車向け需要の低迷や円高による為替の影響により減少いたしました。この結果、成形品部門全体の売上高は、57億92百万円（前年同期比38億23百万円 39.8%減少）となりました。

■部門別売上高構成比



■部門別売上高の推移



所在地別の概況

日本市場

金融危機以降の自動車・家電需要の低迷や設備投資の減少の影響を受け、全ての部門において売上が減少いたしました。この結果、売上高は76億98百万円（前年同期比31億48百万円 29.0%減少）、営業損失は2億57百万円（前年同期は営業利益90百万円）となりました。

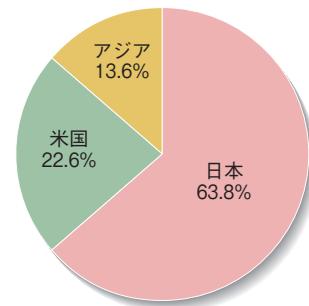
米国市場

北米自動車市場の低迷により自動車部品の売上が大幅に減少したことに加え、産業用ホースも景気後退による影響を大きく受けました。この結果、売上高は26億33百万円（前年同期比21億68百万円 45.2%減少）、営業損失は1億47百万円（前年同期は営業利益63百万円）となりました。

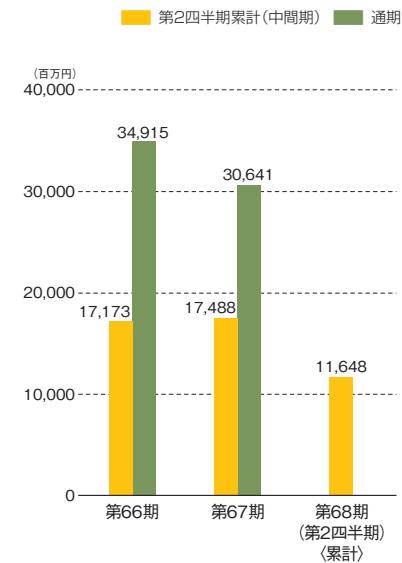
アジア市場

欧米および東南アジアにおける自動車市場の低迷や家電用ホースの需要減少の影響を受け、自動車部品、家電用ホースともに厳しい状況が続きました。この結果、売上高は18億40百万円（前年同期比8億81百万円 32.4%減少）、営業利益は59百万円（前年同期は営業利益3億71百万円）となりました。

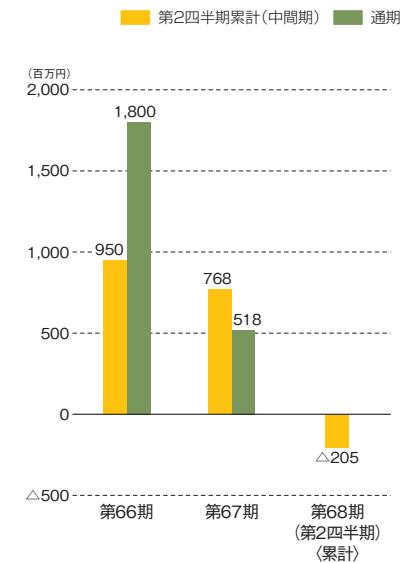
■所在地別売上高構成比



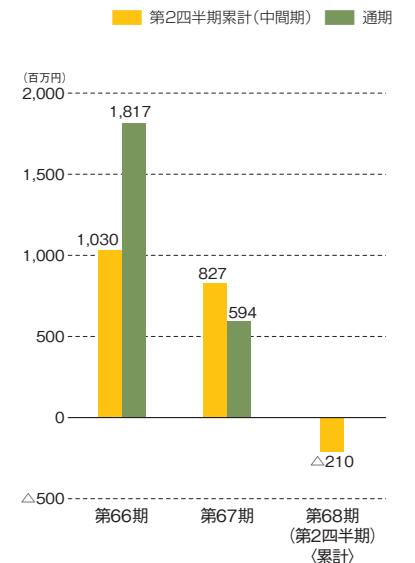
連結売上高



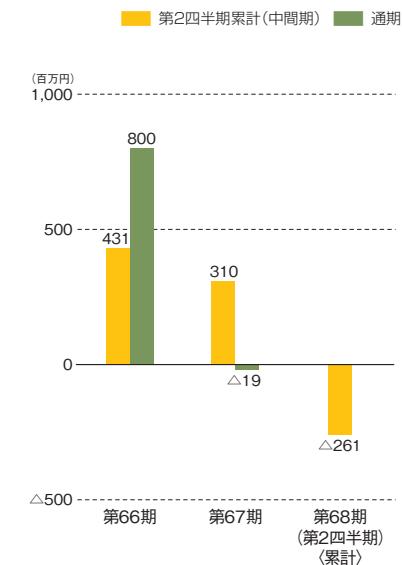
連結営業利益または営業損失



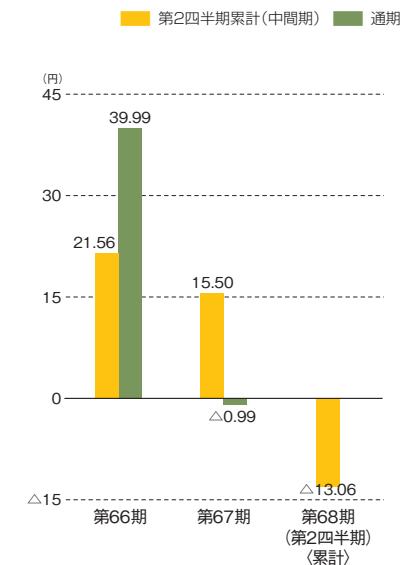
連結経常利益または経常損失



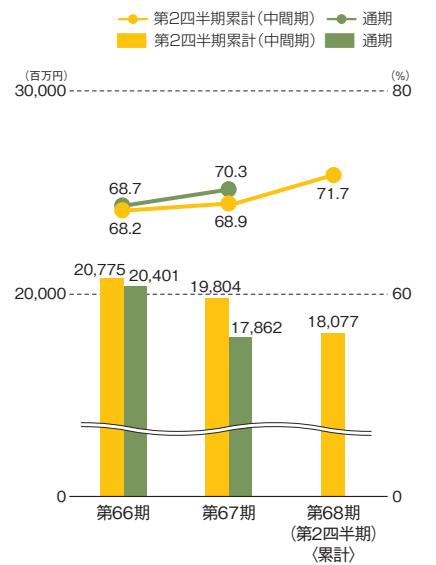
連結当期 (四半期) 純利益または当期 (四半期) 純損失



連結1株当たり当期 (四半期) 純利益または当期 (四半期) 純損失



自己資本・比率



# 四半期連結決算の状況

## FINANCIAL STATEMENTS

### 四半期連結貸借対照表

科 目	当第2四半期末 (H21.9.30現在)	前期末 (H21.3.31現在)
(資産の部)		
流動資産	14,067	14,155
現金及び預金	6,105	5,621
受取手形及び売掛金	5,257	5,554
商品及び製品	1,301	1,311
仕掛品	171	210
原材料及び貯蔵品	829	948
繰延税金資産	152	111
その他	266	420
貸倒引当金	△16	△22
固定資産	11,162	11,241
有形固定資産	9,263	9,444
建物及び構築物	3,388	3,409
機械装置及び運搬具	2,945	3,154
工具、器具及び備品	586	604
土地	1,623	1,597
建設仮勘定	719	678
無形固定資産	244	252
投資その他の資産	1,655	1,545
投資有価証券	1,216	1,103
繰延税金資産	197	199
その他	251	251
貸倒引当金	△9	△9
資産合計	25,230	25,397

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期末 (H21.9.30現在)	前期末 (H21.3.31現在)
(負債の部)		
流動負債	5,186	5,882
支払手形及び買掛金	2,315	2,688
短期借入金	1,650	1,650
1年内返済予定の長期借入金	—	150
未払金	926	881
未払法人税等	44	54
賞与引当金	181	185
役員賞与引当金	1	1
その他	67	270
固定負債	1,351	1,104
長期借入金	150	—
退職給付引当金	896	752
役員退職慰労引当金	—	244
繰延税金負債	16	14
その他	287	93
負債合計	6,537	6,987
(純資産の部)		
株主資本	18,821	19,122
資本金	4,149	4,149
資本剰余金	3,900	3,900
利益剰余金	10,822	11,123
自己株式	△51	△51
評価・換算差額等	△743	△1,260
その他有価証券評価差額金	154	91
為替換算調整勘定	△898	△1,351
少数株主持分	614	547
純資産合計	18,692	18,409
負債及び純資産合計	25,230	25,397

### 四半期連結損益計算書

科 目	当第2四半期(累計) (H21.4.1から H21.9.30まで)	前第2四半期(累計) (H20.4.1から H20.9.30まで)	前 期 (H20.4.1から H21.3.31まで)
売上高	11,648	17,488	30,641
売上原価	9,855	14,246	25,477
売上総利益	1,793	3,242	5,163
販売費及び一般管理費	1,998	2,473	4,645
営業利益または営業損失(△)	△205	768	518
営業外収益	79	88	162
営業外費用	85	29	85
経常利益または経常損失(△)	△210	827	594
特別利益	1	3	1
特別損失	11	97	194
税金等調整前四半期(当期)純利益または 税金等調整前四半期純損失(△)	△220	734	401
法人税、住民税及び事業税	85	298	211
法人税等調整額	△80	64	109
少数株主利益	36	61	99
四半期純利益または 四半期(当期)純損失(△)	△261	310	△19

(単位：百万円)

### 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

科 目	当第2四半期(累計) (H21.4.1から H21.9.30まで)	前第2四半期(累計) (H20.4.1から H20.9.30まで)
I.営業活動によるキャッシュ・フロー	1,056	978
税金等調整前四半期純利益または 税金等調整前四半期純損失(△)	△220	734
減価償却費	859	1,061
売上債権の増減額(△は増加)	383	△268
たな卸資産の増減額(△は増加)	351	△11
仕入債務の増減額(△は減少)	△420	△81
法人税等の支払額	84	△244
その他	18	△211
II.投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,087	△1,121
有形及び無形固定資産の取得による支出	△602	△850
その他	△485	△270
III.財務活動によるキャッシュ・フロー	△41	△122
配当金の支払額	△39	△120
その他	△1	△1
IV.現金及び現金同等物に係る換算差額	86	△111
V.現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	14	△376
VI.現金及び現金同等物の期首残高	4,910	4,425
VII.現金及び現金同等物の四半期末残高	4,924	4,048

(単位：百万円)

### 当冊子における表記について

本報告書は、四半期決算短信の数値、文章をもとに作成しております。その後に公表される可能性がある訂正情報、業績予想の修正情報、決算の詳細につきましては、金融庁EDINETや当社ホームページの掲載資料でご確認ください。

平成21年6月23日に就任した渡辺健太郎新代表取締役社長に、社長就任の抱負や今後の経営方針などについて聞きました。

●社長に就任しての感想をお話いただけますか？

非常に厳しい経営環境の中で、前任の澤田（現会長）から経営を引継ぎ、社長に就任しましたので、大変、身の引締まる思いでいます。当社グループの業績は、誠に遺憾ながら前期は大幅な減収減益となり、今期も前半が終わりましたが、予想通りとはいえ厳しい結果となりました。株主の皆さまに多大なご迷惑とご心配をおかけしましたことを深くお詫び申しあげます。非常に厳しい経営環境ではありますが、この状況を耐えて生き残り、成長軌道に戻すために、経営改善の施策を立ち上げ、着実に進めていきたいと考えています。そして、こういう時期であるからこそ基本に立ち返り、製品の品質や安全性の向上に磨きをかけ、お客さまの目線でさらに充実させていきたいと考えています。そして、それを先頭に立ってやっていくことが、当面の私の仕事だと考えています。

●平成22年3月期はどのような経営方針で臨むのですか？

経営環境ですが、平成21年1月～3月期を底にして、4月以降は徐々に需要が戻りつつあります。しかしながら、楽観することはできません。当社グループの主力3本柱のうち、自動車部品の需要は想定以上に回復しましたが、国内のホース、ゴムシート等の汎用品の需要は当初の予想よりも回復が遅れています。

また、海外においては、中国は前年比で増収を達成するなど好調に推移しています。広州では自動車部品関連、杭州では自動車部品および家電向け部材をそれぞれ生産していますが、両拠点ともフル稼働に近い状況となっています。一方、米国は落込みが大きく、苦戦を強いられています。タイは米国向けの輸出が減少していることに加え、国内も不況に陥っており、厳しい状況が続いています。

このような厳しい状況の中、利益を確保しなければなりません。したがって、しばらくは我慢の時期が続くと考えています。当社グループでは、損益分岐点を引き下げられるために、コスト削減に取り組んでいるほか、設備投資を最低限必要なものだけに抑えるなどの対策を講じました。この結果、日本国内に関しては、損益分岐点を20%引き下げることができました。また、9月以降、業績の挽回を図るべく、営業面の活性化を図りま

した。具体的には組織を改革して、国内と海外の営業部隊の連携をより強固なものにしました。さらには、エンドユーザーのニーズをくみ取るために、引続き代理店と協力していくとともに、当社の研究開発部門の人材が営業を支援する体制をとるなどの強化策を検討しています。

●中期的にはどのような戦略を実行していくのですか？

今後も引き続き、自動車部品やホース、ゴムシートとこれまで培ってきた既存の技術の延長線上にあるものを研究・開発していきます。そして、主要ターゲットとして、環境と新エネルギー分野を狙っています。本田技研工業のハイブリッド自動車“インサイト”に当社の2次電池冷却ダクトが採用されています。また、ゴムシート材料については、燃料電池や太陽電池向けに応用展開を進めていきます。今後も研究開発型企業であり続けたいと思っています。

一方、海外展開については、好調を維持している中国において、平成22年以降の増産を視野に入れていきます。広州では、隣接地に用地を確保しており、生産能力を倍増させることが可能です。ただ、需要動向を見極めながら、徐々に増強していく方針です。

●今後の抱負をお話いただけますか？

平成12年に銀行から当社に入社して以来、経理を担当し、経営計画の策定にも携わってきました。また、工場や営業店の動きにも目を配ってまいりました。これまでに培った経験や知識を活かしていくとともに、今後は“ものづくり”や“営業”についても、これまで以上に力を入れていきたいと思っています。

また、会議などの場では、自分のアイデアを出しつつ、みんなの意見も聞いて議論を活発にしていきたいと考えており、社員が持つ力を最大限引き出せるようリーダーシップを発揮していきたいと思っています。

経営環境は厳しいですが、より強く、より柔軟な体制をこの時期に構築し、当社グループを再び成長軌道へ戻すことに精進したいと考えています。

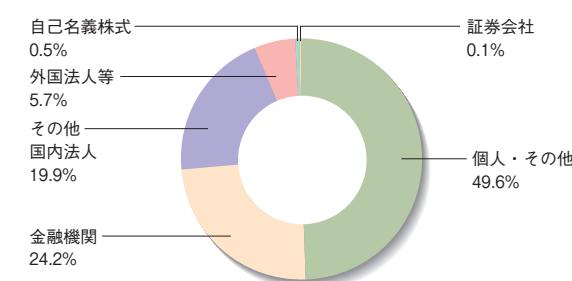
株主の皆さまのご支援をよろしく願いたします。

株式の状況 (平成21年9月30日現在)

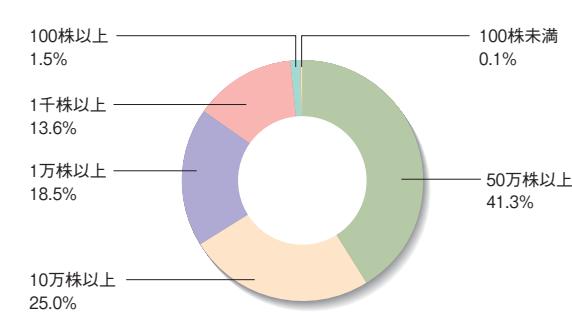
●発行可能株式総数	80,000,000株
●発行済株式の総数	20,111,598株
●株主総数	3,077名

株主名	持株数	出資比率
澤田博行	1,400 千株	7.0 %
タイガー興産有限会社	1,315	6.6
タイガース取引先持株会	1,004	5.0
株式会社三菱東京UFJ銀行	979	4.9
T.P.C持株会	905	4.5
澤田宏治	858	4.3
株式会社京都銀行	776	3.9
タイガースポリマー従業員持株会	514	2.6
日本生命保険相互会社	504	2.5
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	485	2.4

●所有者別株式分布状況



●所有株数別株式分布状況



会社の概要 (平成21年9月30日現在)

商号	タイガースポリマー株式会社 TIGERS POLYMER CORPORATION
設立年月日	昭和23年12月20日
本店所在地	大阪府豊中市新千里東町一丁目4番1号
資本金	4,149,555,676円
従業員数	連結：1,456名 単独：539名
事業の内容	合成樹脂、ゴムおよびそれらの複合資材をもとに、ホース、ゴムシート、成形品、その他金型などの製造販売
事業所	本社・東京支店・名古屋支店・大阪支店・ 広島支店・栃木工場・静岡工場・岡山工場・ 開発研究所・商品調達室
グループ会社 (主要な連結子会社)	Tigerflex Corporation (米国) Tigerpoly Manufacturing, Inc. (米国) Tigerpoly(Thailand)Ltd. (タイ国) Tigers Polymer(Malaysia)Sdn.Bhd. (マレーシア) 杭州泰賀塑化有限公司(中国) 広州泰賀塑化有限公司(中国) 武庫川化成有限会社(兵庫県) 高槻化成有限会社(大阪府) 大阪タイガース工販株式会社(兵庫県) 山田ゴム工業株式会社(東京都)
主要取引銀行	株式会社三菱東京UFJ銀行 株式会社京都銀行 中央三井信託銀行株式会社

役員 (平成21年9月30日現在)

代表取締役会長	澤田博行
代表取締役社長	渡辺健太郎
取締役副会長	野村光昭
常務取締役	佐々木博
常務取締役	木戸俊明
取締役	高良寛人
取締役	源田晴信
取締役	澤田宏治
取締役相談役	田中剛
常勤監査役	滝野和敬
監査役(社外)	大川治
監査役(社外)	薩摩嘉則